

いしづち

2025.1

JANUARY

No.168

 公益社団法人 愛媛県建築士会
Ehime Society of Architects & Building Engineers
<http://www.ehime-shikai.com>

新年のご挨拶
年男・年女の抱負
空間



1	新年ご挨拶	会長 尾藤 淳…………①
2	年男・年女の抱負 日々を大切に生きる 挑戦の年へ 趣味の世界に移行 年男の抱負 年男の抱負 建築士会に入会して 歳男7回忌 米作り 年男雑感 幸運の丙午生まれ	四国中央支部 星川 知毅…………② 新居浜支部 深見 兼司…………② 新居浜支部 横山 和良…………② 今治支部 京極 征樹…………② 今治支部 西原 良…………② 松山支部 片岡 晶子…………② 松山支部 笹木 篤…………③ 大洲支部 武田 尚樹…………③ 宇和島支部 松浦 洋…………③ 宇和島支部 與那原慶子…………③
3	空間	道上壯/VUA…………④
4	自分磨きへの道しるべ 建築パス製作実践編4)	松山支部 尾崎 光高…………⑥
5	委員会報告 旧岡田家別荘の調査について 文化財まちづくり委員会委員長 峰岡 秀和 委員 花岡 直樹…………⑧ 愛媛の登録有形文化財 明専寺鐘楼門 文化財・まちづくり委員会 委員 波頭 陽一…………⑭ ヘリテージマネージャースキルアップ講座第1回 「日本建築の歴史講座と上分神社現場見学」報告 宇和島支部 田中 陽子…………⑮ 松山支部 一之瀬佳緒理…………⑮ 令和7年度中四国ブロック若手建築志(士)交流会in山口報告 青年委員会 委員長 武智 良太…………⑯ 青年委員会主催 支部対抗ソフトバレーボール大会 優勝報告 四国中央支部Aチーム 高橋 智洋…………⑰ 最下位報告 宇和島支部 青年部長 稲葉 太一…………⑰ 女性委員会主催スキルアップセミナー 曳家 岡本直也講演会 「建築士が知っておきたい沈下修正+構造から直す本気の住宅再生」に参加して 女性委員会 委員 鷺尾ひろみ…………⑲ 全国建築士シニアクラブ交流会報告 サポートの会 寺尾 保仁…………⑳	
6	支部報告 今治支部 視察研修「ひろしま国際建築祭2025」に参加して 今治支部 石丸真智子…………㉑ 松山支部 研修バスツアーin尾道ツアー 松山支部 中山百合子・高須賀範昌・渡邊道彦…………㉒ 大洲支部 CLT工事現場見学会 実施報告 大洲支部 支部長 仲尾 和彦…………㉔	
7	お知らせ 令和7年度 第3回理事会概要報告 事務局…………㉖ 専攻建築士(新規・更新)登録申請受付期間のお知らせ 事務局…………㉖ 本会賛助会員新年広告 ……………㉗	

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。

透明水彩、紙 サイズ/F4



あ い し ま
題：「安居島」

[表紙画について]

安居島の歴史は、江戸時代中期の開拓に始まります。1817年に大内金左衛門ら開拓者が入植し、港を整備したことで潮待ち・風待ちの島として栄え、明治時代には遊郭ができるほど賑わいました。その後、船舶の大型化などにより寄港地としての役割は減少し、1955年頃に人口がピークを迎えたものの、過疎化が進み、現在は松山市の一部となっています。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

- 1974 東京生まれ
- 1980 小学校から高校まで松山在住
- 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
- 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞(愛媛県建築士事務所協会主催)
- 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
- 1996 日本工業大学建築学科 卒業
- 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
- 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞者「世界の果の庭」(新潮社)の装丁担当
- 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
- 2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」収蔵される
- 2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「柳リチエルカ」を設立
- 2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

新年のご挨拶

会長 尾藤 淳一

新年明けましておめでとうございます。皆様にとりまして、良いスタートが切ることが出来たでしょうか？この原稿を書いている時点では、まだまだ先の見えない混沌とした状況が続いていますが、穏やかな気持ちでお正月を迎えることが出来るようになっていたことを願っております。

さて、今年は午年です。馬は古来より力強さとスピードの象徴であり、前進や開運を意味する動物でもあります。午年は、変化を恐れず新しい挑戦に踏み出すパワーを秘めた年とされ、行動力や独立心を促す年と解釈されています。

昨年の4月から10月まで開催された大阪・関西万博は、2550万人を超える入場者でまずまずの成功といえるイベントでした。万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」で、多様性を認め合い、生きる幸福感を享受しながら、持続可能な社会を追求するといったことが求められていました。私自身、2回行きましたが、人の多さに圧倒され、人気のパビリオンは見る事が出来ず、万博の謳うメッセージを受け取ることは出来ませんでした。人々が楽しんでいる姿を見ると、それはそれでよかったのだらうと思っています。

人類の歴史を見ると、エジプト文明などにも象徴される様に、絶対的な権力者と従属する市民により社会が成り立ち、他の勢力と争うことで勢力を拡大してきました。権力者と市民の関係性にはバランスが必要で、そのバランスを欠くと革命が起こることもありました。そして今も世界各地で、ロシア・ウクライナのように戦争や紛争が絶えることはありません。権力が集中することで、巨大な建造物を作ることが可能になりましたが、他の勢力からすると権力の象徴ですので、破壊の対象となりうるものでもあります。建築と破壊、そうやって歴史は繰り返されてきました。今回万博が行われている期間中にも、世界のどこかで戦争があり、万博の理想とはかけ離れた現実があります。万博の理想を追求するために、本質を見つめることが必要と感じました。

我々の生業とする建築の世界も技術革新、消費者ニーズの高度化など日々変化して、建築設計・施工・維持管

理に求められる役割や責任は一層拡大・高度化していますので、建築士・建築設備士をはじめとする建築分野の専門人材の確保・育成は喫緊の課題となっています。一方で、建築士資格制度や建築士事務所制度、契約慣行、報酬制度、試験制度などにおいては、依然として改善の余地が大きく、時代に即した制度設計が求められています。また、消費者保護の観点からも、契約の透明性確保や品質確保に資する措置が重要性を増しています。加えて、建築士及び建築士事務所等の業務においては、DX・GXの進展、地域社会の変容、法令遵守体制の強化といった新たな課題への対応が求められています。このような環境の中、建築士会連合会・建築士事務所協会・建築家協会が連名で、国交省住宅局長に提案書を提出しております。制度改革はいつになるかは分かりませんが、我々建築士は、社会のニーズに応じていけるよう対応をしていかななくてはなりません。

また愛媛県建築士会でも会員減少や高齢化が止まらず、財政的に事業のあり方や仕組みなどの見直しが喫緊の課題です。入会促進は引き続きしていくとともに、会員のメリット向上と退役世代に対しても存続意義を高める活動を増やしていく、郵送・通信費の適正化、事務処理の簡略化などの改革が必要です。馬のように力強さとスピードを持って前進していきたいと考えております。会員の皆様におかれましても、本会の現状をご理解いただき、ご協力頂ければ幸いに存じます。

最後になりましたが、今年も皆様にとりまして幸せな一年でありますことをご祈念申し上げて、ご挨拶いたします。本年もよろしくお願いいたします。



年男・年女の抱負

日々を大切に生きる

四国中央支部 星川 知毅

新年あけましておめでとうございます。建築士資格を取得して初めての年男となります。士会に入会してから、様々な行事、活動に参加させていただき、毎度のことで新たな刺激を受けています。

24歳からの12年の間では、現場監督として入社して建築に携わるようになり、2年前に愛媛に戻ってきてからは現場の施工図面を描いたりするなど、様々な業務に携わってきました。これから次の12年間も新しいできごとを楽しみながら、日々を大切に生きていきたいと思っています。

挑戦の年へ

新居浜支部 深見 兼司

午年の年男ということで、本年8月に72歳を迎えます。建築設計業務に携わり約50年、振り返ると「山あり谷あり」のあっという間の50年でありましたが、思えば、創造したものを形にするという凄くやりがいのある設計にずっと携われてこられたことに感謝しております。

あと何年健康で設計業務に携われるか分かりませんが、今年の抱負として、やれることは全てに挑戦し「よりアグレッシブに」を心掛け、常に前向きに、少しでも向上できる自分になれるような一年にしていきたいと思います。

趣味の世界に移行

新居浜支部 横山 和良

新年あけましておめでとうございます。

新年早々還暦を迎えますが、同時に建築行政マンとしての終焉も迎えます。実際には定年65歳への移行期間にかかり、もう少し新居浜市のためにお手伝いをします。

60歳になれば健康面に注意し、趣味の釣りに勤しむ予定です。膝や肩が痛くなる年頃ですが、電動リールという武器があるので、出来るだけ長くやっていきたいです。調理とか新しいチャレンジもしていきます。

年男の抱負

今治支部 京極 征樹

新年明けましておめでとうございます。今年で48歳ということで、大学卒業からゼネコンを経て市役所で勤務し24年、人生の半分以上、建築業界に身を置いていることに改めて深い縁を感じています。

年男として迎えるこの一年、仕事に励みつつも家族への感謝を忘れずに、日々の暮らしを丁寧に重ねていきたいです。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年男の抱負

今治支部 西原 良

新年あけましておめでとうございます。自分でも信じられないようなスピードで50歳目前となりましたが、家のこと、仕事のことバタバタする日がまだまだ続きそうです。趣味とよべるものが出来、自分をリフレッシュさせることがだいぶ上手になってきたように思います。めまぐるしく時代が流れていくなかで、ものの考え方、価値観などが世代によってこんなにも違うのかと驚くことが多々あり、自分にも変化が必要なのかと最近強く感じるようになりました。が、初心を忘れずに、ブレずに過ごせたらと思います。

ゴールは全然見えてきませんが、家族のため、今までお世話になった方々のために、周りの皆様の力を借りてこれからも頑張っていきたいと思っています。

建築士会に入会して

松山支部 片岡 晶子

二級建築士に合格して建築士会に入会したのが平成29年、この9年間で一級建築士の取得、士会活動にも少しずつ参加し、いろいろなご縁がありました。松山支部の仲間からのお誘いでソフトバレーへの参加をきっかけに広報委員に抜擢、数年務めさせていただき、現在は青年委員、松山支部の事務局などなど…改めて振り返ると結

年男・年女の抱負

構な割合で士会に関わっているのだなぁと思うと同時に、多くの方と知り合せて大変嬉しく思います。

3回目の年女、お馬さんのように力強く、前向きに、明るい一年にしたいと思います。今年もよろしくお願いたします。

歳男7回忌

松山支部 笹木 篤

6度目の歳男、ということで寄稿文を迫られました。何の抱負もなく、平常心であります。最近は何も考えないことを信条としていて、これが結構効果的でいろいろなことが楽になりました。「無の境地」とはほど遠いですが……。

昨年来ヘリテージマネジャーの関係でさまざまな調査に関わる機会を与えていただき、なんとか士会の会員らしくなってきました。今後も続けて行きたいと思います。

米作り

大洲支部 武田 尚樹

早いもので48才になります。39才で結婚し今は二児の父親です。家業を継いで住宅の設計施工をしています。

昔から田んぼを30a程作っており、一昨年にはイノシシの被害に逢い20aの田は全滅になりました。昨年はその田は休みましたが、米の高騰もあり、今年はまた作りたいと思っています。ワイヤメッシュ対策もしているのですが、押し上げて入ってくるので難題です。米作りは大変ですが、先代がやってきたように収穫の喜びを味わえるようになりたいとおもいます。

年男雑感

宇和島支部 松浦 洋

明けましておめでとうございます。本年満72歳、6回目の年男であります。お陰様で取りあえず健康で過ごしています。

私の建築士会は28歳から40歳まで間がメインだった

ように思います。県連の青年部副部長時代、早川邦彦講演会を取り仕切らせてもらい、アポイントを取る事を口実に早川先生が案内役のヨーロッパ建築視察旅行に同行させていただいた事を思い出します。学生時代を思い出し、設計の原点とは何か改めて感じさせていただいた貴重な体験だったし、先生の「建築は場に共振する」の教えは、今でも心に残ります。

これからは一会費要員として本会に貢献したいと思います。

幸運の丙午生まれ

宇和島支部 與那原 慶子

明けましておめでとうございます。宇和島支部の與那原慶子と申します。このたび、還暦の年女を迎えることとなりました。私が生まれた1966年は、出生数が激減した丙午の年です。

丙午生まれの女子は、「気性が激しく、夫の寿命を縮める」と言われてきましたが、少人数であるがゆえに、多くの面で恵まれた経験をすることができました。特に、社会に出るタイミングがバブル期と重なったことは、受験や就職活動において大きな追い風となりました。

世間で言われた「縁起の悪い年」というレッテルは、私たち丙午には全く当てはまりませんでした。むしろ、最高のスタートを切れた幸運な世代だと感謝しています。

夫の建築設計事務所も創業26年目を迎え、私たち夫婦も新たなフェーズに入ったと感じています。困難に遭遇してもポジティブシンキングで、明るく元気に楽しく人生を歩んでまいります。今年もよろしくお願いたします。



「空間」とは一体どんなものなのだろうか？辞書的な定義を色々書き並べると、何だか逆にぼやけてしまって伝わらないような気がする。僕は今まで3つの建築に強く空間を感じたことがある。

最初は、京都の設計事務所に勤めていた時のことだ。夜、クライアントの所に打ち合せに行く時に、先輩から声を掛けられた。「近くに安藤忠雄のTime'sがあるぞ」と。京都三条通り高瀬川沿いに建つテナントビルのTime'sのことだ。当時の僕は安藤建築には全く興味がなかったが、いつも色々と良くしてくれる先輩からの声掛けだったので、打ち合せの帰りにちょっと見ておこうと思って寄ってみた。

夜の10時過ぎ、近くのパーキングに車を停めて、お店の閉まった誰もいないTime'sに足を踏み入れてみた。外部階段を何段か上がると、妙な感覚に襲われた。全身に何かがまとわりつく。みなさんも子供の頃、目を閉じて眉間に指を近づけると、近づいてくる指を感じたことはないだろうか。それと同じような感覚を全身に感じた。「何だこれは？」僕は訳も分からないまま、外部階段をウロウロと上がり下りしながら、小一時間、その奇妙な感覚を楽しんでいた。

この時、安藤忠雄が世界的に評価されている理由は、この空間体験のせいだと思った。全身に奇妙な圧を感じる建築なんて初めての体験で、微妙な絶妙な寸法で縦・横・高さの空間をつくる安藤忠雄に感服してしまった。しかし、その後、大阪・神戸の安藤建築を幾つか見に行ったが、同じような感覚を体験することはなかった。Time's特有のこの感覚。この体験は、何だったのだろうか？

2回目は、東京の設計事務所に勤めていた時のことだ。同僚が担当した宮城の大河原公園が竣工間近になり、僕は久しく会えていなかった同僚に会いに、そして現場の見学に行った。小さな管理棟の傍に庭が計画されていて、目線ほどの高さのコンクリート塀が建っていた。竣工時にはこの塀の高さまで盛土をして、ちょっとした小高い丘の中庭になる予定だった。ところが、盛土をしていないこの庭に出てみると、また奇妙な感覚に襲われた。シンプルな塀と遠くに見える山々と空。それらに囲まれてそこに立っていると、全身に奇妙な圧を感じた。まるでプールに浸かっているかのように、囲まれている透明な立体を全身で感じた。

僕は思わず感激して「凄い空間をつくったね！」と同僚に声を掛けた。同僚からは「ここ埋めちゃうんだよね」少し寂しげな言葉が返ってきた。コンペで取った公共事業なので、そうおいそれとは計画変更ができなかった。2人でしばらく建築の話をしながら、その空間を堪能した。

単なる偶然かもしれないが、今まで感じたことのない空間をつくることのできたことを喜びつつも、消えゆくことに対して何もできないもどかしさも感じた。素材なのか、寸法なのか、周辺環境なのか、それらの複合的なものなのか、僕ら二人に理由は分からないまま、僕は現場を後にした。Time'sに似ていながらも、また違った感覚。この体験は、何だったのだろうか？

3回目は、愛媛に帰ってきて自分の事務所を始めた頃だ。カミさんが、どこかに連れてけとうるさいので、うどんを食べに行き、その後美術館に行くことを提案してOKをもらった。以前から行きたかった丸亀の中村うどんと、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に行くことになった。まんまと作戦成功。カミさんはうどん、僕は猪熊弦一郎美術館。

谷口吉生の猪熊弦一郎現代美術館は、ゆっくりと見たかったので、先にうどん屋さんに行ってお昼を済ませてから美術館に向かった。小さなエントランスと、その上に大きく覆い被さる屋根のようなピロティ的空間。エントランスとその横にある上階への屋外階段あたりに、また独特な感覚を感じた。「この辺、何かいいよね」カミさんも感じるものがあるらしい。僕は、また全身に奇妙な圧を感じながら「ここには空間がある」ことを実感していた。非常に大きな空間でありながら、ヒューマンスケールの身体に語りかけてくる何かを体感していた。

谷口さんの建築は、幾つか見たことがある。土門拳記念館。東京都葛西臨海水族園、展望広場レストハウス。豊田市美術館。広島市環境局中工場。でも、空間体験を感じたのはこの猪熊弦一郎現代美術館だけだ。この建築が特別なのか、それとも僕の感覚がこの建築にのみ反応しているのか、それは分からない。Time'sとも大河原公園とも違う感覚でありながら、どこか繋がるような共通するような所もある。

「空間」とは何なのだろうか？こんな感覚を感じなければ空間ではないのだろうか？空間を定義することが正しいことなのだろうか？非常に奥深くて難解で得体の知れないものが、空間ではないのだろうか？考えを巡らせれば、その答えは果てしなく謎めいて何処までも尽きない。僕らの周りに確実に存在しながらも、誰にもその実態を明らかにしていない空間。それはひょっとしたら、永遠の謎なのかも知れない。

みなさんも、建築で特別な体験をした時は、空間について考えてみて欲しい。ひょっとすると、空間を解き明かす糸口が見つかるかもしれない。今僕は、3つの建築の体験をもう一度確認したいという思いと、それらと同じような感覚を受ける建築に出会いたいという思いと、こんな感覚を人に与える建築をつくりたいという思いに駆られている。日々、空間の中で過ごしながら、気が付かずに見過ごしている空間。定義なんかには拘ることなく「これが空間だ」誰しものが心地よく快適で、そして不思議な感覚を受けるモノ。言葉ではなく、これだというものを探して見つけてつくり出したいと思っている。

建築パース制作実践編 4)

色鉛筆によるパース技法



松山支部 尾崎 光高

水彩画パースより簡単であり、色を作る必要がない為手軽に取り組める技法です。

1 使用道具類

まずは色鉛筆の種類ですが、色のノリが良いので1本100円代の物を使って頂きたいです。文具店、画材専門店では売ってますので、かなりの色数が手に入ります。用紙はコピー用紙（表面の目が細かい物でない）と色が上手くノリません）ケント紙（表面がツルツルしているので精密な仕上がりに適しています）「表現技法は前回の鉛筆と同じです」



2 製作準備 某ビル外観

今回も実例写真を使って製作順序を解説してまいります。2012年に東京出張の折、銀座にて撮影した某ビルを題材にしました。

〔準備〕
写真をカラーコピーしてトレペにてトレースしたものをコピー用紙に印刷して準備完了。(今回は鉛筆でトレースした為、柔らかな線画となりました)



▲東京某ビル外観

作画手順 1

- ①空から着色します。写真では薄曇りの日だった為、青空に変えました。雲の形はぼやかしています。
- ②外壁左面のカーテンウォール部分の上部から空が映り込んでいるイメージで描いていきます。サッシ枠は余り気にせず大まかに下塗りを重ねます。
- ③太陽の反射部分は白紙のままとします。
- ④中間部の室内が見えている窓、隣のビルが映り込んでいる部分等の範囲を写真に忠実に描き分けていきます。
- ⑤下部はカーテンが垂れ下がっていますが、ここはぼかした表現とします。
- ⑥ベンガラ色のパネルを色合いの変化を意識しながら描いていきますが、中々近似色1本では色が出なくて、何色か重ね塗りしました。(重色という技法です。複雑な色を再現する時に使いますが絵画の手法です)
- ⑦右面(影部分)も同じ様に描いていきます。
- ⑧所々に室内の照明を入れる事で立体感を演出するようにします。
- ⑨写真には有りませんがガラスの反射の斜線を入れます。
- ⑩サッシ枠を描き入れます。上部に行く程薄くしていきます。(距離感を出す為。空気遠近法ですね)



▲コピー下図

▲作画手順 1

作画手順 2

- ①全体のバランスを考えながら空の色を濃くして建物が浮き立つように調整します。
- ②1階部分の店舗部分を描いていきます。(ここも写真には無いですがガラス面の反射部分を描きます)
- ③路面部分を大まかに入れていきます。
- ④路面に縦線を入れることにより、水面に建物が映り込んでいるイメージ(雨上がりの風景的)とすると変化が出てきてパースが生き生きとしてきます。
- ⑤周りの建物は薄く簡単な描き込みとします、色も実際の色では無く主役を生かす構成としました。



▲作画手順 2

▲作画手順 3

作画手順 3

- ①添景を描き入れますが、人・車は余り描き過ぎないようにこの位でイラスト的とします。(形はペンにてハッキリと描きます)色は華やかさを出す為、赤、紫等を使います。
- ②樹木もペンにて描き、色を付けましたが明るい部分はペン修正液にて表しました。(絵画、イラスト、漫画製作でも使用されています)
- ③路面の描き込みも進めていきます。消失点に向かう線も入れて水平感を出します。
- ④路面にも黒点、白点(ペン修正液)を入れて淡泊にならないように建物とのバランスを取ります。(路面はどっしりとした仕上がりとします)色も赤紫、紺等を使いカラフルな仕上がりとしました。
- ⑤最後に全体的に調整します。(太陽の反射部分は白色のコンテ鉛筆にて塗り強調、窓等濃い部分を足していく、店舗の照明を足す、サッシ枠のホワイト部分を足す等)



プチ考察

この建物は普通のカーテンウォール+パネルの組み合わせが印象的でした。独創的なベンガラ色パネルと黒との取り合わせが日本的なイメージから発想を得たのかなと感じられました。周囲の建物も赤(この建物にも負けていないですね)、茶、青緑色系(こちらのビルと対比してベンガラ色が引き立っています)でありますが、溶け合っているように見えます。どちらが先に建ったのか分かりませんが考慮されている様に思います。

参考例 住宅提案例

普段は住宅の設計が多い為、実務で描いているラフプランを紹介致します。いつもはフリーハンドで作成する機会が多いのですが、今回はCADで作成した下図を基に色鉛筆で仕上げているものです。

- ①平面図はCAD図面の上からフリーハンドでなぞり色を付けますが、図中心を消失点とし一点透視図的に内壁などの影を入れることにより立体感を出した例です。
 - ②立面図は無しで外観パースとする場合があります。フリーハンドで仕上げると柔らかい印象となり施主に受け入れられ易くなるかと思えます。
 - ③内観パースはこの程度でまとめます。施主の家具・照明器具・カーテン等の好み把握が出来ない場合などは余りイメージを限定しない方が良くかと思えます。
- *この様にデジタル仕様を手描き風に見せるテクニックも大いに役立ちますのでとにかく練習してみてください。次回は水彩によるパース製作についてご紹介致します。今回も古建築シリーズはお休みとなります。



▲ 1F 平面図



▲ 2F 平面図



▲ 外観パース



▲ 内観パース

尚、建築士会HPより、カラー版が閲覧出来ますので宜しくお願い致します。

旧岡田家別荘の調査について

文化財まちづくり委員会委員長 峰岡 秀和
委員 花岡 直樹

はじめに

藤高興産株式会社の藤高豊文氏の依頼を受け、令和7年7月9日・10月29日に峰岡・花岡が現地調査を行った。旧岡田家別荘は木造2階建て入母屋造り棧瓦葺き(一部銅板葺き)、床面積229.47㎡の建物で、岡田恒太氏の別邸として大正5年(1916)に建てられた。現在もほぼ当時の状態で使用されている。座敷に面する庭の景観も素晴らしく、茶室を持つ別荘建築として建築的価値も高いため国の登録有形文化財も見据えて調査をする運びとなった。

今治タオルの歴史

今治の藩政時代の経済を支えたのは白木綿だった。今治は綿花の栽培に適した土地柄で、綿花から綿布を作り財源としていた。河村瑞賢による航路の開拓もあり、江戸期は海運業が盛んであった。上方に近い今治は物資の輸送に適していたこともあり、白木綿は全国へ流通していったのである。その後、柳瀬義達により綿替木綿といわれる取引制度が作られると、藩の経済の中心となった。農家の女性の副業であった木綿は一気に藩の産業となったのである。その後、過剰な生産などから品質が落ちるなど様々な困難があったが、品質向上や規格統一などの努力が実り、着実に白木綿産業は伸びてゆくのである。

ところが、明治に入ると外国から輸入されたものや、関西から安価な製品などが流通し、今治の白木綿の販売は衰退してゆくことになる。失業者にあふれる今治を救ったのは矢野七三郎であった。家業の海運業や酒造業を弟に譲ると「紀州ネル」に活路を見出し技術を習得・研究、明治19年(1886)3月に共同で興修社(のちの興業舎)を設立するのである。矢野が心血を注ぎ生み出した「伊予ネル」が今治を再び織物産業のまちへと導くのである。矢野は起業から3年後に凶刃に倒れるが柳瀬義富や丹下辰雄(丹下健三の伯父)らが意志を継ぎ、工場は近代化されさらに発展してゆくのである。軍需も相まって今治の織物産業はさらに発展を続けてゆく。その後阿部平助によりタオルが作られるようになると麓常三郎による織機の開発などもあり、日本を代表するタオル産地となってゆくのである。

※ネルとはフランネル(flannel)を略したもので、綿素材の生地を起毛させ、保温性や肌触りを良くしたもの。

(峰岡秀和)

岡田恒太について(略伝)

岡田恒太(安政元年~?)今治の人。綿ネル製造業者。今治綿工業史の一時期、名が記録されているが現在では語られることはない。

明治19年(1886)矢野七三郎が創業した興業舎(一説に興修舎)に一職工として参加。

矢野は吹揚公園に銅像を残す今治綿業の中興の祖であり、明治19年紀州より綿ネルを持ち帰り幕藩時代からあった白木綿の衰退を救った。ただ興業舎の最初の規模は5、6人くらいであった。

クリスチャンであった矢野は明治22年(1889)12月24日のクリスマス・イヴに家に押し入った凶賊によって惨殺される(未解決事件)が、興業舎は矢野の伯父の柳瀬吉富によって引き継がれ、大工場に発展していく。この過程の明治25年(1892)岡田は綿ネル業の将来が明るいことを看取して独立。僅かな織機を「晝夜職工と伍して奮闘努力、殆んど寝食を忘るる」ようにし、徐々に規模を拡大し、明治33年(1900)には綿ネルを中国(当時清)に輸出するまでになった。これは綿ネルの輸出の嚆矢である。

続いて明治37年(1904)12月、同志二名とともに今治起毛合資会社を設立し、明治40年(1907)4月社名を伊豫織布合資会社と改称、明治45年(1912)同社の全株式を取得して単独のオーナーとなった。

大正5年(1916)頃には興業舎と肩を並べる今治を代表する会社とした。当時の伊豫織布合資会社の内容は次の如くである。

同上資本金：5円

同上設備：汽鐘3台、公称15馬力横置凝縮聯成汽機2台、オット式瓦斯発動機1台(*)、英国製糊付機1台、英国ウチリアムジャッキンソン力織機248台、英国製荒巻機5台、経(経)繰機5台、緯巻機14台、幅出機1台、碼量機1台、起毛機14台

同上敷地面積：3250坪(日吉村)

同上職工数：497名(男工72名、女工425名)

同上生産額：17万850反(66万705円)

同上出張所：大阪市東区南本町1丁目

大正8年(1919)1月、伊豫織布合資会社を岡田合資会社に名称変更。大正末には今治綿業の中心的人物として当時今治経済界を背負う今治商業銀行の取締役にも就任した。

ところが昭和2年（1927）1月、些細な噂から今治商業銀行に取り付け騒ぎがおこった。このとき岡田に過大な貸し出しがあること、また岡田の綿糸相場の仕手の失敗が明るみに出たことから今治商業銀行は休業をやむなくされ岡田も破産状態に陥った。その後伊豫綿布合資会社は立ち直ることなく昭和14年（1939）12月に別邸を合資会社藤高（株式会社藤高の前身）に売却したがその後のことは詳らかでない。

（藤高豊文）

藤高興産株式会社と旧岡田家別荘

藤高興産株式会社の本社、株式会社藤高は大正8年（1919）の創業である。創業者は藤高豊作^{とよさく}で34歳の時の起業であった。幼馴染で妻のつるゑの協力もあり、短期間で今治のタオル産業を代表する会社の一つとなる。ところが第二次世界大戦の今治大空襲などで今治のまちは灰塵に帰した。藤高の工場も全焼し、ゼロからの出発を指揮したのは創業者の豊作だった。「今治の発展なくして藤高の発展はない」という信念からタオル組合の発展に尽力しただけでなく、今治市・愛媛県へも多額の寄付を行った。今日まで様々な経済不況があったが決して折れることなく、豊作の意志と技術を今に伝えている。

保養所は綿ネル業者岡田恒太の別荘として大正5年（1916）に建設されたことが固定資産税明細書から分かっている。岡田の経営破綻により昭和14年（1939）12月に藤高豊作が土地建物を購入した記録が残っている。藤高興産も日中戦争のあおりを受ける中、矢野の意志を継ぐ岡田を助けるべく動いたのだらうと考えられる。建物は瀬戸内海と来島海峡大橋が見える高台に当時の姿を残している。

（峰岡秀和）



▲庭からの瀬戸内海の景色



▲建物北面（正面）



▲建物東面

建物の構成、形状について

平面構成は、東側の玄関、座敷に北側の西に和室、食事室、水廻りが接続する形となっている。

玄関は建物の北側に位置し、6畳の玄関の間を持つ。玄関の間の東に6畳の茶室、西には内玄関が接している。それら3室に接する幅1間の畳廊下を挟んで座敷部の次の間（7.5畳）、座敷（10畳）が連なっている。この座敷部の東と南には4.5尺幅の広縁が巡らされていて、そこから来島海峡を挟んで大島を一望でき、北の方には来島海峡大橋も見え、素晴らしいロケーションとなっている。

内玄関（現在は閉じられ倉庫となっている）から入った廊下、階段室の西側には和室（6畳）が設けられ、その三方を巡る廊下に接する形で食事室、便所、浴室、脱衣室などの水廻りが配置されている。

2階には内玄関の正面に設けられた階段から上がる。廊下を介して押入と倉庫を持つ7.5畳の1室のみの構成となっている。

外観は、2階部分の屋根は寄棟造の棧瓦葺きで、それを取り囲むように座敷部分と西の和室の1段高くなった屋根が取り付け、茶室の上にも入母屋造の屋根が載る。これらの下にまるで下屋のように1階屋根が設けられている。玄関、茶室、縁の屋根は、軒先が銅板で葺かれている。また、玄関庇は柿葺きである。したがって全体の屋根の形は複雑を極めている。

外壁は、1階は腰を板張りとする。板の幅、腰壁の高さ、張り方は各所で変えられ変化をつけ、南西の一部は杉皮張りとなっている。2階と茶室上部の腰は簞子下見板張りで、1、2階とも腰壁上部は鼠漆喰塗りとしている。



▲玄関



▲次の間

内部の意匠的な特徴について

座敷は床の間、床脇、書院を備えた本格的なしつらえとなっている。床柱は杉磨き丸太、床框は漆塗り、床脇の床板は暑さ30mmの一枚板（材種不詳）で地袋は設けず天袋のみを持つ。柱、鴨居、長押しには目の込んだ榎の良材が使われている。次の間の西には3畳の大きさの



▲広縁



▲浴室の天井 中央に換気口がある

板間がある。納戸的な用途かと思ったが、当初は畳を敷いた和室だったそうである。座敷と次の間の間境の欄間には、桐の板に「源氏香」の紋様が彫られているのが面白い。源氏香は組香の一種で、組香とは、数種類の香りを組み合わせて香りを聞き（嗅ぎ）分けるといふ風雅な遊びとのことである。床の間の裏側（西側）には廊下を挟んで客用の便所を配している。

茶室は、1間半の北側に床の間と床脇を持ち、床柱、落掛には竹が用いられている。床の間と床脇の床板は、幅1間半、奥行き半間の一枚板が用いられている。床の間の外壁面には半月状の下地窓があり、掛障子が吊られている。一部の柱に面皮材、長押しも丸太を削いだものを使うなど、かなり柔らかく自由な造りとなっている。先の座敷を「真」とするなら、こちらの茶室は「行」あるいは「草」といったところであろうか。

内玄関西の和室は、東側に階段下を利用した押入を持ち、他の三方は廊下に囲まれている。内装もきちんとし



▲床の間



▲食事室 小屋組が現しとなっている



▲明るく開かれた茶室



▲外部にある銅製(?)のボイラー。当初のもの

ていて、以前は居間兼寝室として使われていたそうである。

北西に位置する食事部屋は、以前は1段下がった板張りであったそうである。その後大きく改修されているため、建築当初の姿を押し量ることは難しいが、小屋は当初の姿をとどめている。かまどは屋外にあったようで、小屋材がすすけていないことから、この場所で火を使っていないことがわかる。

2階は1室のみであるが、押入や倉庫を備えていることから、以前は寝室として使われていた可能性がある。

まとめ

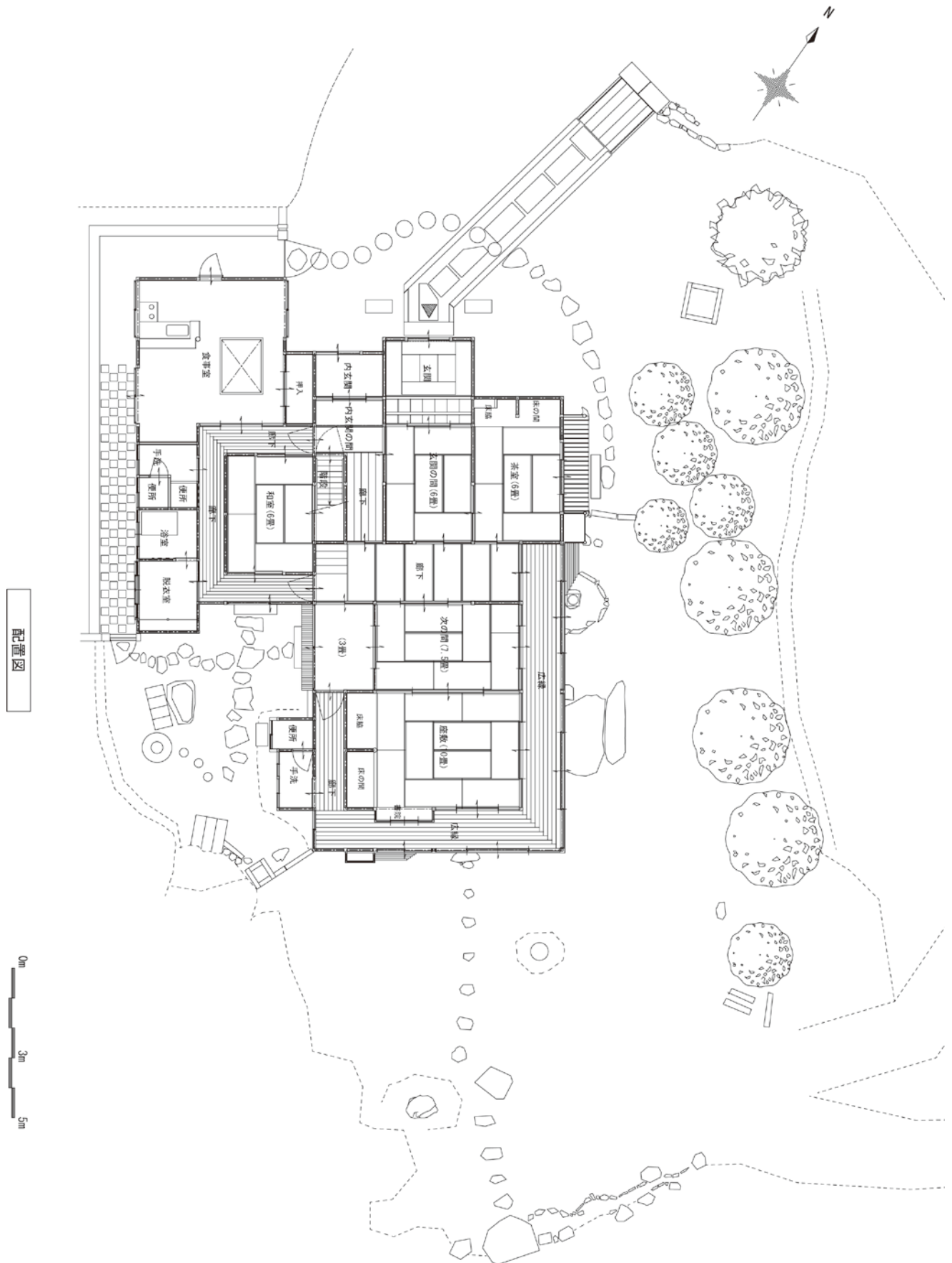
洗練した材料がふんだんに使われ、精緻な作業で建てられ、多くの部分が建築当初の形をとどめている。形や仕上げ、デザイン等もよく考えられ、今治の地で、綿業で栄えた富豪の邸宅の遺構として貴重と考えられる。今後活用しながら保存されることを願ってやまない。

(花岡直樹)

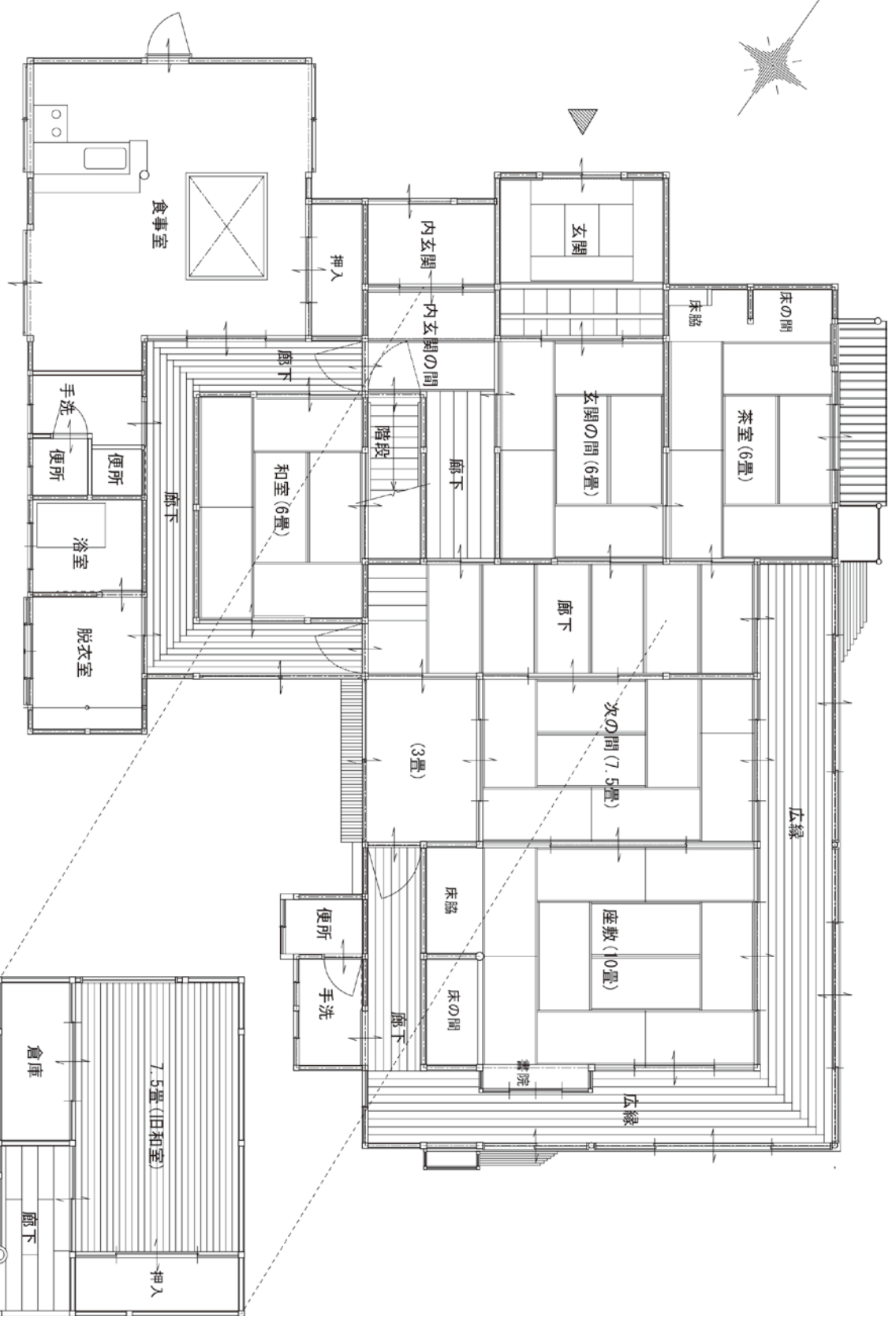
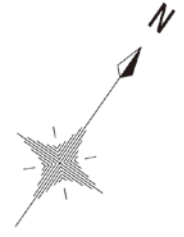
最後に

現在日本には有形・無形と様々な文化財がある。その中で専門的な知識をあまり持たなくても肌で感じ、楽しむことができるのが建築物の特徴ではないだろうか。特に近代産業とともにあった文化財を拾い上げることのできる「登録有形文化財」は地域の特色を持つ文化の保存という意味でも大きな役割を持っている。100年前の近代の歴史が失われていく現在、当時の文化とともにある建築が次世代のふるさとになっていくことを切に願いたい。今回の調査に全面的にご協力くださり、また寄稿してくださった藤高興産株式会社 藤高豊文社長に感謝申し上げます。

(峰岡秀和)



配置図



1階平面図

2階平面図

1階床面積 201.83m²
2階床面積 27.64m²
計 229.47m² (69.41坪)

愛媛の登録有形文化財

明専寺鐘楼門

文化財・まちづくり委員会 委員 波頭 陽一

今治市大西町脇にある明専寺は、明暦3年(1657)開創の浄土真宗本願寺派の寺院である。国道196号線から南へ約220メートル入った小高い丘陵の先端に位置していて、境内からは東に国史跡の妙見山古墳が見え、北には弓杖島が浮かぶ斎灘を望むことができる。現在の住職は12世にあたり、開基より368年間法統・血統が途切れることなく続いている。

令和7年8月6日付けで、「明専寺鐘楼門」は「明専寺石垣」とともに国登録有形文化財(建造物)に登録された。現在鐘楼門は解体され、白石委員が代表を務める青鳳工房で保存修復を行っており、令和8年秋頃に完成の予定である。

鐘楼門は江戸末期、6世住職諦順の時に再建された。寺録「鐘楼入用帳」によると、天保9年(1838)に着工、天保11年(1840)1月に完成とある。大工棟梁は「岩五郎」と記されている。改修は1回のみで、鐘楼門1層目の軒廻り、腰板、柱の根継ぎなどを行っているが、全体的に建築当時の意匠がほぼ保たれている。梵鐘は太平洋戦争中の金属改修令により供出された。現在の梵鐘は昭和23年に新調されたものである。



▲明専寺鐘楼門外観

構造形式は木造、一間一戸、二重鐘楼門、入母屋造り、本瓦葺き。一層目は桁行1間1戸、梁間2間、二層目は桁行3間で中央間を吹き放ちとし両脇間は連子窓、梁間は2間ですべて連子窓。一層目外壁は漆喰塗り、一部腰板張りとする。

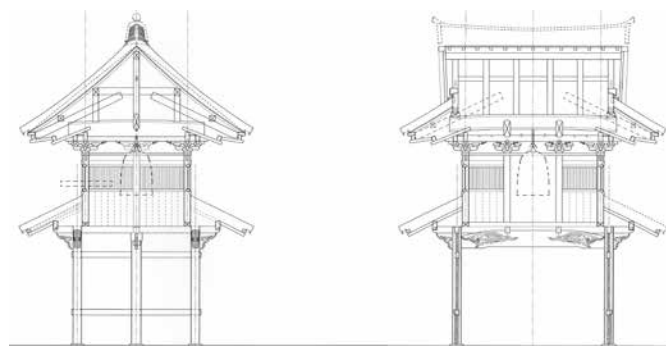
基礎は花崗岩の独立した礎石で、6カ所の礎石同士を繋ぐように花崗岩の長石を切込んで固めている。

一層目の軸部は、桁行方向の柱同士は虹梁で繋ぎ、梁間方向は貫で繋ぐ。柱頭部は頭貫で繋ぎ、その頭貫が柱から跳ね出した位置で桁を受け、屋根を乗せている。二

層目は頭貫上に柱盤を置き、角柱頭は彫刻を施した頭貫で固め台輪を置く。その上に柱を立て、出組の斗拱を置き小屋組を支える。

軒廻りは一層目が一軒平行垂木、二層目は二軒平行垂木、木負、茅負眉付、布裏甲である。

小屋裏はまず梁間方向に2本の小屋梁を架け、その上に120mm×320mmの梁を桁方向に架け梵鐘を吊る。梵鐘梁の上に甲乙梁を置き、母屋、棟木を架けて屋根構造を形成している。



▲鐘楼門断面図

鐘楼門といえば縁と高欄を廻したものを思い浮かべるが、屋根が二重になったものは全国的にも類例が少なく、大変貴重である。見えかかり材のほとんどは高級な母材が使われており、一層目の虹梁や持ち送りに施された絵様彫刻、二層目の頭貫に施された唐草文様の彫刻には天保年間の特徴が表れている。建設にあたっての普請文書が残されていることも歴史的価値を高めている。

境内東面の坂道になった市道に面した石垣は総延長82メートル、最大高さ2.5メートル。中央石段を挟んで鐘楼門の建つ北側は、弓杖島の花崗岩を使用して天保9年(1838)の築造、北側は寺周囲から集めた様々な石材を使用して安政4年(1847)に築造された。



▲石垣外観

ヘリテージマネージャー スキルアップ講座第1回

「日本建築の歴史講座と 上分神社現場見学」報告

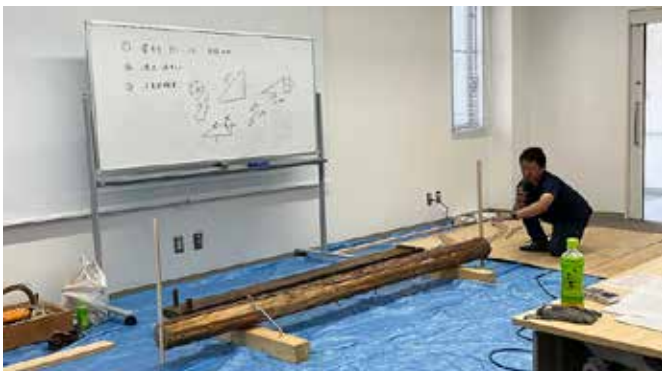
宇和島支部 田中陽子

開催日：令和7年8月30日(土)
開催場所：四国中央市金生公民館
参加者：13人

前半講義について感想を書きたいと思います。

今回の講師は、宮大工の合田純さんの講義とのことで、以前から宮大工さんの話を聞きたいと思っていたので、開催の案内が届いたときから楽しみにして参加しました。講義では、日本建築の歴史に沿って社寺建築の設計術・規矩術や、墨付け・刻み・組立の技術や、修繕の方法などの話をして頂きました。社寺建築などの古い建築は木組みが非常に複雑で、現代のように便利な機器類があったわけでもない時代によくこんなに立派な建物が出来たモノだと、ヘリテージの見学会ではいつも感心するのですが、実際「雀と大工は軒でなく」という言い伝えがあるほど、軒を納めるのは非常に苦労すると話されていました。

今回は丸太材に墨付けをする実演も見せて頂きました。また午後からは上分神社の改修現場を見学し、相当頭を使わないと出来ない仕事だと、脳みそから煙が出ているのではないかと思うほど中身の濃い講義でした。なかでも興味深かったのが、違う土地では自分が普段やらないような方法で組まれていたり改修されたりしていて、当時の棟梁に話を聞くことも出来ない状況で、この組み方は間違っているのではないかと思うこともある。が地元住民の方から話を聞いたりすることで、この場所でのやり方を知り、また想像して考えて取り組むことがそこにいない棟梁や施主への敬意である、と話されていて、ものづくりの大切な心構えを教えて頂いたように思いました。合田さんは常に勉強熱心で、もっとお話を伺いたいと思うほど、興味をそそられる講義でした。改めてヘリテージの奥深さを知ることができました。



▲墨付けの実演

松山支部 一之瀬佳緒理

午後講義は、上分神社で本殿修理について午前引き続き合田棟梁にご説明いただきました。屋根の葺き替えにあたり、垂木は短くぶら下がっているだけの飾りで全く仕事をしておらず、また力を受けている桔木(はねぎ)は元々細いため、桔木から上の部材は入れ替えることにしたそうです。丸太を手斧で斫り多角形にした桔木は、揺らしてみることによって垂木には力が加わっていないことが一目瞭然でした。

拝殿前にて集合写真▶



▲合田棟梁

▲箕甲



▲丸太から作り上げた桔木 ▲左側:丸みをつけた自作の道具

市販の道具で仕事にしにくい場合は木材の形状に合わせて自作で改良しているそうです。

合田棟梁が修理で大事にしていることとして『元々の棟梁と施主に敬意を表すこと』とおっしゃっていました。また伝統構法は絶滅を危惧する職であるとして嘆いておられ、貴重な瞬間に立ち会えたという嬉しさの反面、複雑な気持ちになりました。原寸図から型板を起こしたり、丸太から角材を作り上げたり、社寺建築の設計術や規矩術を習得したりと多種多様な努力と知識と経験が必要とされる伝統構法。50年・100年とどう後世に残していくか、これから担う若者にどう興味を持ってもらい安心して働ける場所が作れるか、行政も巻き込み業界全体で考えていかなければならないことではないかと勝手ながらそう感じました。

後半の写真は見学会の数日後の様子をいただいたものですが、まさに芸術作品。とても美しい曲線で感動すら覚えました。お忙しい中、講習会とその資料の準備にご尽力いただきまして、合田棟梁はじめ関係者の方々に感謝申し上げます。



▲野垂木・母屋・箕甲

▲野地板・箕甲



▲野地板・箕甲

▲切り揃えられた箕甲



<上分神社>
四国中央市上分町549
創立年代は未詳。
往古より守り神として奉斎、牛頭
天皇宮と称えていたが、明治2年
上分ノ神社と改称、その後、上分神
社と改まった。

令和7年度中四国ブロック 若手建築志(士)交流会in山口報告

青年委員会 委員長 武智 良太

開催日：令和7年10月18日(土)～19日(日)
開催場所：山口県下関市唐戸周辺
参加：武智、遠藤副委員長

10月18～19日の2日間、山口県下関市で開催された中四国ブロック若手建築志(士)交流会in山口に参加させていただきました。

私事になりますが、下関は、しまなみ経由で九州を目指した際に満身創痍状態で通過することが多く、今回、ようやくゆっくり下関を見て回ることができるのを楽しみにしておりました。

唐戸市場で集合して、交流会スタート。下関のみならず、人道トンネルを経由して門司まで、脚を運んでのまち歩き。関門海峡をまたいでそれぞれ毛色の違う2つの街並みを、徒歩・トロッコ列車・渡船の三段構えでじっくり散策。私達の住まう瀬戸内とはまた違った海沿いの文化を感じ取ることの出来るまち歩きでした。



▲安徳天皇を祀る赤間神宮



▲人道トンネルから県境をまたぐ

夜はシーモールパレスにて懇親会。ふぐ等の下関の幸とお酒をいただきながら、中四国9県の皆さんと交流を深めました。

余興の山口の地酒の利き酒クイズでは、私が出張って

散々たる結果を残しました。

某格付けバラエティ番組なら画面から消えている。



▲懇親会の様子

2日目のエクスカージョンは、唐戸地区近代建築群の散策。旧下関英国領事館・旧秋田商会ビル・下関南部町郵便局・山口銀行旧本店・田中絹代ぶんか館といった、大正時代前後の名建築の数々を案内していただきました。



▲旧下関英国領事館

毎年各県持ち回りで開催される若手建築志(士)交流会、今回も非常に盛り多き2日間となりました。

山口県建築士会の皆様には心より感謝申し上げます。そして、来年の交流会は高知県中土佐。こちらぜひとも参加したいと思っております。



▲唐戸市場にて集合写真

青年委員会主催 支部対抗ソフトバレーボール大会

優勝報告

四国中央支部 Aチーム 高橋 智洋

開催日：令和7年11月8日(土)

会場：内子スポーツセンター (内子町)

参加者：11チーム、93名 (応援・スタッフ含む)

最終成績

優勝：四国中央A	7位：事務所協会
2位：西条	8位：伊予
3位：松山B	9位：四国中央B
4位：松山A	10位：今治
5位：西予	11位：宇和島
6位：松山C	

四国中央支部からは昨年と同じくA・Bの2チームで参加しました。Aチームは「今年こそ優勝!」、Bチームは「最下位脱出!」を目標に6月から月2回の練習を始めました。しかし、仕事や家庭の都合でなかなか人数が集まらず、試合形式の練習はできません。それでもバレーに詳しい森川さんにコーチをお願いし、基礎からしっかり個人練習を行いました。オーバーパス、アンダーパス、アタック、サーブの体の使い方まで教わり、少人数でラリーすることで守備範囲も広がったように思います。個人練習は試合形式に比べてボールに多く触れることができ、有意義だと感じました。

試合当日、くじ運悪くA・B両チームが同じブロックに。Bチームは気負いのせいか波に乗れず初戦で敗退。下位トーナメントでも初戦で敗れ「また最下位か…」と嫌な予感が走ります。しかし徐々に個人練習の成果を発揮し、宇和島支部との最下位決定戦で勝利!ようやく安堵しました。そしてその勢いのまま今治支部との戦いへ。強打に押されながらもサーブポイントで食らいつき、終了間際に同点。最後は相手の攻撃がエンドラインを割り、劇的勝利! Bチームは2連勝で9位に順位を上げ、笑顔で締めくくることができました。

Aチームは2回戦から登場。伊予支部との試合では序盤に連続失点を許しましたが、徐々に動きが良くなり逆転勝利。続く準決勝は昨年の王者・松山Aとの対戦でしたが、エンジンも掛かってきて勢いで勝ち切りました。決勝は強豪・西条A。強打を浴びながらも必死に拾い、エースのアタックで得点を重ね勝利!見事、優勝をつかみ取りました。

建築士会のレクバレーに参加して10年ほどになりますが、年々レベルが上がっているのを実感します。強豪の西条、松山に加え、他の支部も来年は警戒が必要です。

レクバレーの魅力は、少しだけ時間を作れば仲間と一緒に汗を流し、絆を深められることにあると思います。来年もこの輪を広げ、さらに熱い戦いを全力で楽しみたい

と思います。

最後に、準備をしてくださった宇和島支部・西予支部の皆さん、そして各支部の皆さん、本当にありがとうございました。



▲宇和島支部と最下位決定戦で初勝利!!



▲優勝旗と記念撮影

最下位報告

宇和島支部 青年部長 稲葉 太一

宇和島支部は前年5位のメンバーの大半が引き続き参加し、前年以上の順位を目指しました。全体練習も2回行い、大会に向けて気持ちも高揚して準備万端で大会に臨みました。

今年は南予地区が大会運営にもあたり、私自身は大会運営や試合参加と慌ただしく動き回ることになるのですが、大会前にはあまり気づいておらず、運営の忙しさに後で気づくことになるのでした。

今年の参加チーム数は11チームで変則的なトーナメントとなり勝者・敗者トーナメントによる大会となっています。

組み合わせのくじ引きでは番号札1と気分上々のスタートでしたが、初戦の松山Cチームとの対戦では終始リードされそのまま敗北となりました。

早々に敗者トーナメントに移り、次戦は西予支部との対戦。この試合では粘り強いラリーを続け接戦となり、同点のまま試合時間終了のホイッスル。その時点でのプレーのポイントで勝敗が決することになったのです。そして西予支部渾身のアタックを私が真横にはじいてしまい、敗北となりました。終了のあいさつの後は味方からの冷たい視線におびえ、足早に大会運営に逃げ戻ってしまいました。



▲ 今年はチームTシャツを揃えての参加

この敗北により最下位の順位決定戦に進むことに。相手はここ数年最下位が続く四国中央Bチーム。とはいえ、序盤からリードを奪われる厳しい展開で、中間時刻でのチェンジコートでも流れを変えられず、逆転せぬまま試



▲ 日頃の運動不足が堪えます

合は終了。結局、3戦全敗により最下位となってしまいました。

今回の結果はとても満足できるものではありませんでしたが、チームメンバーと協力し合い大会参加者の方々と時間を共有できたことは、とても有意義なものであったと思います。

試合進行をまかせっきりになってしまった武智委員長をはじめ、その他会場の手配、運営を手伝っていただいた皆様、本当にありがとうございました。

参加していただいた皆さんに主だったケガもなく無事に大会を終えられたことは何よりでした。

来年もよろしく願い致します。



▲ 大会終了後の記念撮影

女性委員会主催スキルアップセミナー 曳家 岡本直也講演会「建築士が知っておきたい 沈下修正+構造から直す本気の住宅再生」 に参加して

女性委員会 委員 鷺尾 ひろみ

開催日：令和7年11月3日(月・祝)
会場：愛媛県県民文化会館別館 第11会議室
参加者：37人

11月3日女性委員会主催スキルアップセミナー「曳家岡本 講演会」に参加しました。当日は一般の方を含む37名が参加されました。

新著「曳家岡本口伝 建築士が沈下修正工事を相談されたら読む本」の出版に合わせての講演会をとっても興味深く拝聴いたしました。

岡本さんは昭和南海大地震の復興のために興隆した「土佐派」で親方として20代から切磋琢磨され、2011年の東日本大震災を契機に千葉県に移住されたそうです。このきっかけとなったのは当時の市長から直接電話で「浦安を救ってください」と言われた時にBウィルスのアルマゲドンのテーマソングが流れたとか流れなかったとか…なんともかわいらしすぎます。

土佐派は枕木の添え柱を使った木造に特化した繊細な工法の「曳大工」です。その継承者である親方の岡本さんが、建築士に基礎知識として知っておいて欲しいことを実際の現場のお写真を使ってわかりやすくお話してくださいました。

沈下修正工事というと、床が傾いている。その傾きを床でなおす、という一般的なイメージがあるようです。実際は「住宅を安心して暮らせる場所にする、という根源的な目的」のために必要な工事で、建物が水平になればいいというものではありません。「上手い下手はあっても、手間をかけて丁寧に施工することで施工品質は変わる」し、建築士が正しい知識をもつことで、その建物にあった工法を、「費用対効果を見極め」施主に提案し、さらには「職人の作業パフォーマンスを最大限に引き出すためのフォローができる管理者」として「事上磨錬(机上の空論でなく日々の実践で知識を磨くこと)」していくべし!というメッセージを(勝手に)受け取りました。

沈下修正工事の工法はおおまかにでも6工法あります。HD金物がある築浅の建物なら基礎ごと建物を持ち上げるアンダーピニング工法や耐圧板工法を選ぶ、重い建物の場合は土台揚げ工法にするなど、対象の建物の基礎や土台の構造、その敷地の支持層や地盤改良工事状況などから複合的に工法を選んでいくそうです。

「不易流行」岡本さんの著書「建築士が沈下修正工事を相談されたら読む本」にサインをいただいた際、書いてくださった言葉です。古(本質)を忘れず、時代の変化に新しさを取り入れること。余談ですが、私の大好きなSnow Manの新アルバム「温(音)故知新」は、古から

新たな知識をえることを差し、似て非なる意味合いです。

建築の工法は年々進化しています。先日、父が50年以上前に使っていた法令集が出てきたのですが、厚みが1センチもない。薄くて小さく見えました。現在の建築法令集は片手で持つのもちょっと大変な厚さと重さです。命を守るために安全に建てるということが大前提ではありますが、実際の現場では古い建物をどう活かしていくか、スクラップアンドビルドでいいのか、など考えるべき問題はたくさんあります。さらには震度5の地震が何度も発生し、南海トラフを心配しながら暮らしているなかで、私自身建築士として何ができるのか考え、地震被災建物応急判定士、木造耐震診断登録建築士として学び、また新築住宅の工程を監査する業務にも就くようになりました。大きなことはできませんが、自分の手の届く範囲で、少しずつできることをやっていく。そのために、岡本さんのような先輩方の経験と知識を、ご著書を通して学ばせていただけるのは本当にありがたいことだとつくづく実感しております。

講演会後には、「五志喜」にて郷土料理をいただきつつ、また岡本さんに質問したり、諸先輩方に仕事の相談をさせていただいたり充実した時間をすごさせていただきました。

これは宣伝になりますが、岡本さんのご著書「曳家岡本口伝 構造から直す本気の住宅再生」と「曳家岡本口伝 建築士が沈下修正工事を相談されたら読む本」どちらもとても内容が濃く、勉強になります。もし、ご必要でしたらぜひ弊社1Fの書店にてお取り寄せできますのでご連絡お待ちしております。絶版になっている「曳家が語る家の傾きをなおす『沈下修正』」もありますので、販売用はありませんが、店舗で実際にお手にとって読んでいただくことは可能です。

岡本さんとお話しできるだけの知識をもつべく切磋琢磨して参りたいと強く思っております。



▲岡本講師

全国建築士シニアクラブ交流会報告

サポートの会 寺尾 保仁

開催日：令和7年9月19日12：00～13：00

会 場：グランキューブ大阪

参加者：2名（寺尾、武智青年委員長）

建築士会全国大会「おおさか大会」会場の会議室をお借りして、全国建築士会シニアクラブ第2回交流会が行われました。

全国11都道府県から26名が参加され、愛媛からは青年委員長の武智良太君と私の2名で参加致しました。

今回の世話人である三重県建築士会シニアクラブ代表森本則晃さんより、会の主旨説明や、昨年の開催報告の後、各県から自己紹介を兼ねて、活動内容や準備中、検討中の状況等報告があり、情報交換が行われました。

本県としては「サポートの会」の立ち上げについて報告をさせて頂きました。他県では主にシニアメンバー中心のクラブとしての活動が主で、本県のようなシニア前の若い人も参加できるという取り組みは無く、他県から興味が示されたように思います。いずれにしても会の主旨は同じで、会員間の交流の促進、ドロップアウト防止を主な目的としていることは共通しています。今後は県をまたいでの交流など、幅広く進めていくとの意見も出され、来年の全国大会「群馬大会」での第3回開催と、シニアクラブを全国に広げて行こうという新たな指針も示され、短い時間ではありましたが有意義な意見交換が出来ました。

交流会の参加者は私にとって懐かしい人ばかりで、各県青年委員長OBが多く見受けられました。みなさんまだまだ熱い心で語ります。

本県でも当初、シニアを中心としたメンバーでの立ち上げを目指しておりましたが、シニア前の若い人たちも参加できる会にして欲しいとの声もあり、元々は会員増強の呼びかけの一環になればと考えておりましたので広く参加者を募ることとなり「サポートの会」とする事となりました。

会の骨子は、会に賛同して頂いた数名の方と協議し作成して理事会での承認を得ました。

会の主旨は、各委員会事業のサポート（応援）や独自の交流会の企画や勉強会を開催し、会員のレベルアップを図り、会員相互の交流と新たな会員の増強の協力に繋がっていきたいということです。

「サポートの会」の入会の条件は特にありません。ただし士会内の任意の会ですのであくまでボランティア（自費）で行う会です。これまで各委員会で活動をされていて、今後も何か活動を継続したいと思われる方、これまでは活動の機会が無かったが、時間が取れるようになったので、今後、活動・勉強・交流に参加したいと思われる方は是非一緒に活動しませんか。

「サポートの会」は、各委員会事業の協力、参加者の呼びかけなど案内を頂ければメンバー協力のもとお手伝い出来るかと思えます。「サポートの会」は出来るだけ多くの方に登録を頂き、事業の開催される地域ごとに案内を差し上げる事で参加しやすい環境にしたいと思っております。まだ地域の世話役の方を決めておりませんが、今後は登録して頂いた方の中から世話役の方を決めるなど、組織を作っていきたいと思っております。



▲シニアクラブ交流会風景

「サポートの会」の入会を希望される方はご連絡ください。是非とも宜しくお願い致します。また会の運営等ご意見ございましたら、お聞かせください、今後の活動に反映させたいと思えます。

入会方法

≪建築士会事務局≫

lee04603@nifty.ne.jp

タイトル：サポートの会入会申込み

必要事項：①氏名

②携帯電話番号

③連絡用メールアドレス

を入力の上、メールにてお申込みください。

今治支部 視察研修 「ひろしま国際建築祭2025」に参加して

今治支部 石丸 真智子

開催日：令和7年11月9日
開催場所：福山市、尾道市の各会場
参加者：6名

今治支部視察研修はあいにくの小雨が降る中での出発となりました。早朝より小型観光バスで「ふくやま美術館」へ向かいました。私は福山駅から新幹線に乗ることも多いのですが、北口側を散策するのは初めてで、福山城公園と一体となった美しい公園の中にある「ふくやま美術館」をもっと早くに知っていたらと悔やまれました。

ここでの建築祭の展示は藤井厚二氏に関するものがメインでした。前田圭介氏が改修した「後山山荘」は2019年に今治支部の研修旅行で訪れたことがあり、その時に所有者の藤井ご夫妻から伺ったお話や、2017年に大山崎の「聴竹居」を見学した時の感動を思い出しながら、見学しました。



▲改修前の後山山荘1/10模型

次に向かった紅葉の美しい神勝寺では丹下健三氏の自邸の1/3模型とそこに集った「アートをけん引した人々」の写真や資料の展示と『NEXT ARCHITECTURE「建築」でつなぐ新しい未来』と題した藤本壮介氏、石上純也氏ら6組の展示がありました。



▲丹下健三 自邸 1/3模型

丹下健三の自邸は次の建築祭では実寸で再現されるそうです。子供たちが自由に使える空間となるようで、どのように開放され、どのように耐震をクリアするか、興

味があり、3年後が楽しみです。

最後は尾道市立美術館での「ナイン・ヴィジョンズ、ブリツカー建築賞受賞者の展示です。昔「建築ガール」（今「建築バアバ」？）の私は学生時代に建築にいただいた夢、活躍する先輩世代建築家への憧れ、年を重ねても発信力のある大御所への畏敬の念……様々な思いを巡らせながら、幸せな時間を過ごすことができました。



▲参加者で記念撮影

「ナイン・ヴィジョンズ」では各氏の代表作の映像、型や図面、資料の展示が多い中、山本理顕氏の展示が印象に残りました。細部まで見学する時間がなかったのが残念です。山本氏の功績の一つに「公的空間と私的空間の間の『罫』」の考察、「自然環境と建築環境の一体化」「空間を共有する感覚」「コミュニティ生活の維持」の提唱があります。

私自身、若いころは自由やプライバシーが大事でも、高齢になると、集団生活をストレスなくおくことができるか否かが、幸福感を左右するのではないかと考えるようになりました。地域コミュニティに積極的に関わるよう意識して暮らし始めたところです。



▲リニューアルした千光寺展望台

小雨が止まぬなか千光寺から石段を転ばぬよう注意深く下り、尾道駅まで散策して、帰路につきました。ふくらはぎが3日間痛かったですが、楽しい視察研修となりました。

参加者が多ければもっと楽しかったことでしょう。

松山支部 研修バスツアーin尾道ツアー



松山支部 中山 百合子

開催日：令和7年11月1日(土)

研修場所：広島県尾道市

参加者：22名

建築士会松山支部からの「研修バスツアーin尾道」の案内を見たとき、私の頭に浮かんだのは、大林宜彦監督の映画「ふたり」（1991年公開）でした。舞台の尾道は坂の街だったよね。行ってみようかなあ。

11月1日、第一の目的地は平山郁夫美術館でした。驚いたことに、館内の絵は撮影自由、そしてロビーでは画伯の絵や版画を販売していました。美術館を訪れるのは平山郁夫ファンが圧倒的に多いのだから、ここで絵が買えるとなると「1枚欲しい！」という人もいるかもしれません。名画とともに、素晴らしい営業戦略にも感心！



▲平山郁夫美術館

第二の目的地は、美術館のすぐそばにある耕三寺でした。日光東照宮の陽明門に似た建物や宇治平等院鳳凰堂に似た建物などがずらりと建ち並ぶ様子は、まるで建物のテーマパークです。極彩色に彩色された精緻な彫刻を、ため息をつきながら見上げて楽しむことができました。



▲耕三寺

そして耕三寺の裏山にはイタリアから運ばれた大理石でできた庭園「未来心の丘」がありました。かなりの厚みの大理石を見て、山の上までどうやって運んだの？施工が大変だったろうね？コストは？とワイワイ。

午後からは自由行動でした。バスの中で、国宝の多宝塔がある浄土寺に行きたい、ガウディハウスを見たいという真面目な建築士さんたちのはずんだ声を聞きながら「不真面目な建築士でごめんなさい」と思いつつ、尾道で御朱印を貰える寺社をチェックしていた中山です。



▲大理石でできた庭園「未来心の丘」

尾道は、映画の通り坂の街でした。古寺めぐりと書いてある石柱の通りに坂道をのぼると、最初に着いたのは持光寺でした。ざっくりとお寺を眺め、御朱印をいただ

き、次の光明寺へ。宝土寺からの途中、志賀直哉の家があれば立ち寄り、猫雑貨のお店を見つくと立ち寄り、最後に立ち寄った天寧寺で偶然にも浄土寺チームに出会って合流。五重塔の上二つを切って三重塔にしたという説明を聞き、レトロな建物の残る商店街を歩いて、ちょっとヘリテージマネージャーの研修っぽく尾道ツアーを終えることができたのでした。

とても楽しいツアーでした。幹事の皆様、ありがとうございました。来年もぜひ参加したいと思います。



▲尾道の町並みと御朱印

松山支部 高須賀 範昌

毎年恒例の松山支部研修旅行に参加しました。家族も同伴できたので、建築士会での活動を理解していただくのに、とても良い機会となりました。出発前は土砂降りであろうかと思いましたが、見学場所に近づくに晴れ模様になり安心しました。まずは、しまなみ海道の生口島にある平山郁夫美術館にて作品鑑賞しました。ブルーやグリーンの鮮やかさに目をとられました。その後、耕三寺を見学しました。建物の部材に刻まれた彫刻に圧巻でした。個人的には、色合いが安土桃山時代の様式にもみえました。また、沖縄の首里城のような雰囲気もあり独特なお寺で、新鮮味を感じました。

その後、昼食で、島名物？たこの天ぷらを食しました。とても柔らかく歯ごたえもボリュームもあり、とても美味しくいただきました。お寺と門前の商店街などで風情ある生口島を堪能した後、バスにて尾道まで移動しました。尾道では、1時間半ほど散策をしました。連休ということもあり、様々なイベントをしていました。そのイベントの中で矯正展という日本全国の刑務所で作られた作品を販売されていました。どれをとっても、丁寧に製作されておりました。また、格安でした。警察官も白バイとパトカー乗車のイベントもあり、生まれて初めて白バイというものに乗ってみました。とても大きく、足が

届きませんでした。大きなバイクを自由自在に運転できる白バイ隊員は、とても厳しい訓練をされているのだろうと思いました。

とても有意義な研修旅行になりました。準備をされた方に感謝いたします。ありがとうございました。



▲白バイに乗って記念撮影

松山支部 渡邊 道彦

花岡支部長のファンを公言してやまない妻が「参加したい」と希望したので、場違いではないかとの心配をよそに、他にも家族参加者が多かったせいか、楽しい遠足という感じの和やかなバス旅行でした。

平山郁夫美術館では、高級車を買う予定だった来場者が思いなおして平山郁夫の絵を買って帰られたという興味深いお話など、集合時間ぎりぎりまで学芸員の方のお話を聞き入っておりました。

余談になりますが、以前勤めていた工務店で四半世紀前に現場に住み込みで工事に携わった観光施設が、今は閉業されていて悲しくなりましたが、当時まかないを作ってくれて親しくなった厨房のおばちゃんからの「こっちは食べていくのに必死ですが、愛媛の方は呑気いいですね」と、おそらく仕事に対する姿勢のことを皮肉られていたことが強烈に印象に残っていて、襟を正された思い出がありました。

尾道では、10年前に中四国B大会の際に訪れた「空き家再生プロジェクト」のガウディハウスがどんなふうに進化しているのだろうかかと気になっていたのも、自由時間を利用して足を運んでみましたが、予約もせず飛び込みで行ったってゲストハウスで宿泊客が利用されているのですから、勝手に中を見学できるはずもなく、外から恨めしく眺めて来ました。

ほかの参加者の皆さんは、花岡支部長のガイド付の贅沢な古建築めぐりや、建築企画展開催中の尾道市立美術館などに、それぞれ研修旅行らしい目的をもって行動をされていた中、我々夫婦とはといえば、海運倉庫がリノベーションされたONOMICHI U2のオシャレで居心地のいい空間に魅了され、テラス席越しに運河を行きかう渡船や遊覧船を眺めながらクラフトビール片手にまったりと過ごさせていただきました。

充実した研修旅行でしたが、一番の収穫は妻が喜んでくれたことだったかもしれません。

大洲支部 CLT工事現場見学会 実施報告

大洲支部 支部長 仲尾 和彦

開催日：令和7年10月11日(土曜日)
開催場所：上須戒コミュニティセンター新築工事現場
参加者：26名

大洲支部の活動として「上須戒コミュニティセンターCLT工事現場見学会」を開催しました。

大洲市の公共施設としては、初めて耐力壁にCLTを使用した施設ですが、今後もCLTを活用した建築物が増える事が予想されます。参加者には設計・施工の参考にしてもらいたいと思い、また、CLTの普及促進の一助となればと思い開催しました。



▲見学施設の外観

大洲市の面積は、愛媛県内の20市町のうち、5番目の大きさですが、その大洲市の面積の約7割が森林で、そのうち約6割を人工林が占めています。大洲市の中心を流れる肱川の流域は昔から林業が盛んな地域で、大洲市にとっても林業は重要な産業の一つです。その林業振興の一環として、CLTの活用が期待されています。

当施設は、木造平屋建て437㎡の新築ですが、発注者である大洲市の強い意向もあり、CLTを使用し建築することとなりました。ただ、大洲市内においてCLTの設計も施工も実施したことのある業者が無く、技術者不足が問題となっていました。そのような中でも、設計も施工も大洲市内の業者が受注され、棟上げまで完了したところで、見学会を開催させて頂きました。

説明は、設計を担当された都市空間設計㈱の松岡氏・井上氏及び建築工事を施工されている㈱大栄建設の大隅氏に行って頂きました。運良くいずれも大洲支部の会員です。市内外から見学会に参加して頂いた方の職種は、設計者・施工業者・大工など多種に渡り、また、CLTを初めて見る方から、CLTを施工した事がある方まで幅広く、その知識の差には大きなものがありました。



▲設計者・施工者からの説明

まず説明を行って頂いた設計者からは、CLTとは何か？から始まり、その活用方法、構造部材への使い方から製造工場の話まで、スライドを活用し、CLT初心者から上級者まで為になる話を、分かり易く説明して頂きました。設計者としても初めてのCLTの設計でしたが、よく勉強されて設計した結果の発表であり、見事な説明でした。

次に施工者からの説明を行って頂きました。施工上の難しい点、注意すべき点などの説明がありましたが、実際に施工しなければ分からないことであり、私としてもとても参考になりました。



▲現場見学の様子

その後、工事現場に移動し実物を見学して頂きました。主催者としての反省点もいくつかありましたが、参加者からは「参加して良かった」との感想も頂き、ホッとしています。

見学会開催にあたり、大洲市役所の担当各部署には全面的にご協力頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。またスタッフとして働いて頂いた大洲支部の皆様、ありがとうございました！

<p>創業40余年の信頼と実績 有限会社 福田瓦工業 代表取締役 福田 大輔</p> <p>〒791-8041 愛媛県松山市北吉田町1022番地1 TEL089-968-6118 FAX089-968-6119 https://fukuda-kawara.co.jp</p>	<p>人と自然の調和  尾藤建設株式会社 代表取締役 尾藤 淳一</p> <p>〒799-0101 四国中央市川之江町2250 TEL0896-58-2426 FAX0896-57-1563 https://bitoh.co.jp</p>
<p>総合建設業  井原工業株式会社 代表取締役 井原 伸</p> <p>〒799-0404 四国中央市三島宮川4丁目2番18号 TEL0896-24-4435 FAX0896-24-4030 https://iharakogyo.co.jp</p>	<p>シロアリに喰われて泣くよりもまず予防！ 株式会社友清白蟻 代表取締役 山辺 利成</p> <p>〒799-2654 愛媛県松山市内宮町513 TEL 089-978-2630 FAX 089-979-6212 HP : https://tomokiyo.co.jp/</p> 
<p>建築の確認、省エネの適判等の審査を承ります。  日本ERI株式会社 松山支店 支店長 西川 達倫 〒790-0003 松山市三番町7-1-21 ジブラルタ生命松山ビル3F TEL089-913-6311 FAX089-913-6353 https://www.j-eri.co.jp</p>	<p>国土交通大臣Hグレード認定工場  前原工業株式会社 代表取締役社長 前原 進一</p> <p>〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町北川原1108-1 TEL089-984-7757 FAX089-984-7759 https://maehara-kougyou.com/</p>
<p> 株式会社 横田建設 代表取締役 横田 郁</p> <p>〒791-8015 愛媛県松山市中央一丁目9番20号 TEL089-922-4181 FAX089-923-3843</p>	<p> マルマストリク 代表取締役 河野 通則 今治・松山・宇和島・大洲・西条・四国中央・多度津 TEL 0898-32-5000(代) FAX 0898-31-5513</p>
<p>一般社団法人 愛媛県中小建築業協会 会長 佐々木 敬史</p> <p>〒790-0878 愛媛県松山市勝山町2丁目3-1 TEL089-943-5525 FAX089-943-5545 https://hime-ken.com</p>	<p>在学中建築士取得可能、大学併修もできる！ 学校法人 河原学園 河原デザイン・アート専門学校 校長 白石 隆保</p> <p>〒790-0002 愛媛県松山市二番町1-12-2 TEL089-931-9111 FAX089-946-0074 https://idea.kawahara.ac.jp</p>
<p>スタイロフォーム、各種断熱材 木野内化成産業 株式会社 取締役社長 篠崎 孝</p> <p>〒790-0052 愛媛県松山市竹原町1丁目5-5 TEL089-941-9242 FAX089-932-7212 http://kinoutikasei.co.jp</p>	<p>—くらしを謳歌 KOYO ARCHITECTS— 興陽商事 株式会社 代表取締役 佐々木 敬史</p> <p>〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1655番地3 TEL0896-58-5298 FAX0896-58-7345 https://1-koyo.com</p>

謹賀新年 2026年

<p>株式会社 岸之上工務店 代表取締役社長 岸之上 憲一</p> <p>〒780-0033 高知県高知市西秦泉寺435番地1 TEL088-822-2222 FAX088-822-5833 https://www.kishinoue.co.jp</p>	<p>建築の安全・安心を支えます</p> <p> 株式会社 愛媛建築住宅センター 代表取締役 井上 竜治</p> <p>〒790-0003 愛媛県松山市三番町4丁目4-7 松山建設会館3F TEL089-931-3336 FAX089-931-3362 http://www.ehime-center.co.jp</p>
<p> 株式会社 久保組 代表取締役 久保 安正</p> <p>〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1978-2 TEL0896-58-2571 FAX0896-58-4823 https://www.kubogumi.com</p>	<p>空調設備・給排水衛生設備・エレベーター</p> <p> 株式会社 戒田商事 〒791-1114 愛媛県松山市井門町190番地1 TEL089-956-2295 FAX089-956-2240 https://kaidae.com</p>
<p> 株式会社 二宮工務店 取締役松山支社長 二宮 広明</p> <p>〒790-0934 愛媛県松山市居相4-22-18 TEL089-956-2888 FAX089-956-2889 https://www.ninomiyakoumuten.com</p>	<p>「信頼と安心をお届けする」地盤づくり ~Trust and Peace of Mind~</p> <p> 東昇技建株式会社 代表取締役 小泉 啓典</p> <p>〒791-1113 愛媛県松山市森松町147-1 TEL089-970-6814 FAX089-970-6815</p>  
<p>ダイヤアルミ 株式会社 代表取締役社長 酒井 才次</p> <p>〒799-3111 愛媛県伊予市下吾川1873番地 TEL089-982-8810 FAX089-982-8815 https://www.daiyaalumi.co.jp</p>	<p>快適に、安全に進化するグリップコート</p> <p>株式会社 住ゴム産業 松山営業所 所長 二宮 孝司</p> <p>〒791-8013 愛媛県松山市山越5丁目16番7号 TEL089-924-5677 FAX089-924-5727 https://www.sumigs.co.jp</p>
<p>建築士・施工管理技士・宅建士</p> <p>総合資格学院 松山校 支店長 山下 健司</p> <p>〒790-0003 愛媛県松山市三番町7-13-13ミツネビルディング7F TEL089-947-2611 FAX089-947-2622 https://www.shikaku.co.jp</p>	<p>トス愛媛 株式会社 代表取締役社長 村上 裕城</p> <p>〒790-0925 愛媛県松山市鷹子町442番地1 TEL089-955-7733 FAX089-955-7734 https://tosehime.co.jp</p>
<p> 株式会社 国代耐火工業所 大阪支店</p> <p>支店長 岩城 隆晴</p> <p>〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町4-6-16 TEL06-6229-9246 FAX06-6229-9247 http://www.agorabrix.co.jp</p>	<p> 四国化成 四国化成建材株式会社 設計・特注営業部 中四国営業課</p> <p>〒764-0017 香川県仲多度郡多度津町西港町42 TEL0877-58-5211 FAX050-3606-6318 https://kenzai.shikoku.co.jp</p>

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。



家を守る 地球を守る やさしいガラス

八松硝子建材(株)



代表取締役 佐々木 隆司

〒791-1102 愛媛県松山市来住町14-4
TEL089-975-3309 FAX089-975-3310
<http://www.hassho.net>



今より輝く地球を未来へ

株式会社 田中建設

代表取締役 岡本 昭吾

〒791-1102 愛媛県松山市来住町1074番地5
TEL089-970-6700 FAX089-970-6701
<https://tanakakensetsu.net>

愛媛県しろあり対策協会

会長 返脚 守

〒791-8001 愛媛県松山市平田町502番地
TEL089-979-6692 FAX089-979-6692
<https://hakutai-ehime.com>



株式会社 松山合板社

代表取締役 大野 晶平

〒790-0062 愛媛県松山市南江戸1丁目2番2号
TEL089-931-8268 FAX089-933-9274
<http://www.matsugou.jp>

暮らしに灯りを シンカ株式会社 四国支社

支社長 清水 厚至

〒791-1112 愛媛県松山市南高井町1852-1
TEL089-970-3077 FAX089-970-3078
<http://www.shinka-inc.com>



窓から夢をひろげていきます
不二サッシ

FUJISASH

不二サッシ 株式会社 中四国支店 松山営業所

〒790-0963 松山市小阪5丁目4番18号ケンキビル2F
TEL089-943-0078 FAX089-933-1057
<https://www.fujisash.co.jp/>



愛媛総合警備保障株式会社

代表取締役 阿部 克彦

〒790-0054 松山市空港通2-6-27
(代)089-971-2010



美しさとやすらぎを創造する…



フジワラ化学株式会社

代表取締役社長 赤岡 泰光

〒799-1342 愛媛県西条市大新田94
TEL0898-64-2421 FAX0898-64-4034
<https://www.fujiwara-chemical.co.jp>



**KANSAI
PAINT**

関西ペイント販売株式会社

丸亀営業所 / 〒763-8510 香川県丸亀市土器町北2丁目88
TEL0877-24-5484 FAX0877-24-4950
<https://www.kansai.co.jp>



私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集し、広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の次号の原稿締切日

令和8年 3月号 (169号) 令和8年1月29日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。
情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛 FAX 089-948-0061

編集後記

10月に埼玉県所沢市にあります、角川武蔵野ミュージアム(本のミュージアム)に行って参りました。

角川武蔵野ミュージアムの建築家は、隈研吾氏です。隈研吾建築都市設計事務所が設計を手がけました。

建築の特徴としては、所沢の台地から隆起したかのような、花崗岩に包まれたデザインが特徴です。また、デザインコンセプトとしては、所沢の台地の力を表現するため、通常の倍以上の厚みのある石に「割肌」という粗い加工を施しています。約2万枚の黒と白の花崗岩スラブが外壁に使用されており、70mmもの厚みがあるそうです。これにより、大地から隆起したような力強さと、石が浮遊するような軽快さを両立させています。

また、角川武蔵野ミュージアムは、美術館、図書館、博物館が統合された文化複合施設としての役割もあり、「ところざわサクラタウン」内に位置し、工場や神社など他の施設と調和するように設計されています。

ミュージアム内部空間は、現代アートとアニメなどのポップカルチャーが融合した未来的な迷宮としてデザインされています。高さ8mの本棚に囲まれた「本棚劇場」が特徴的な空間です。以前、紅白歌合戦で、この本棚劇場から中継され、圧巻のパフォーマンスをされたのを思い出します。

本をコンセプトにしながらも、異空間の様なミュージアムです。

現実世界から離れたくなった時には、皆さんも一度訪れてみたらどうでしょうか。

〈いしづち〉2026/1

令和8年1月発行

発行人 会長 尾藤淳一

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061 <http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アmano印刷有限会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/一之瀬 佳緒理 河合 優志 西岡 亜有美 西森 勉